

【サークルや社会教育関係団体の活性化によって期待される効果】
地域力の向上（まちの活性化）

ワーク③より

活性化

サークル・社会教育関係団体

（生涯学習課・公民館等で把握しているサークル数【約800団体】、認定されている社会教育関係団体数【35団体(H31)】）

【魅力・存在意義】

（魅力について）

- ・人と人とのつながり（孤立化の防止）
- ・生きがいづくり
- ・学びの場

ワーク①より

（存在意義について）

- ・地域の活性化
- ・活動を通じての繋がりの広がり
- ・居場所の確保

ワーク②より

【現状・課題】

- ・新規加入者がいない
- ・活動がマンネリ化
- ・サークル・団体同士の繋がりの希薄
- ・高齢化や後継者不足による既存団体の解散
- ・サークル・団体の活動情報の不足
- ・仲間内だけでの活動
- ・課題の共有がサークルや団体でできていない
- ・行政、公民館が課題を把握していながらも支援策を講じられていない。

委員へのアンケートより

【新たな課題】

新型コロナウイルス感染症により、サークルや社会教育関係団体の活動が制限されてしまっている。

支援

検討課題①
サークルや団体の加入者を増やすには？

支援策として・・・

- ・公民館等が既存サークルや団体と協力して講座を開催し、サークル活動の支援を行う
- ・インターネットやSNSの活用が苦手なサークルや団体に対する支援
- ・サークルや団体が情報を共有することができるホームページやSNSの構築

検討課題②
サークルや団体の横のつながり、活動の横つながりを充実させるためには？

支援策として・・・

- ・市民だけでなくサークルや団体に対してもコンパクトにまとめた情報を提供することで、自分たちの活動を補うことができ、活動の幅を広げることができる
- ・同じジャンルの団体が集まり交流や発表できる場の提供

検討課題③
「新しい団体」の立ち上げを促進するためには？
（サークルから社会教育関係団体への移行を促進する観点も含めて・・・）

支援策として・・・

- ・まずは「知ってもらう」ことが重要であるため、サークルや団体の宣伝・広報活動の充実が必要。例えば、各公民館等で活動しているサークルや団体について、各公民館等が常に周知する体制を整えたり、広報しろいで特集を半年または1年に1回組んだり、サークル紹介の冊子を作成したりなどの支援
- ・社会教育関係団体として好ましい活動を行っている団体について表彰する制度

【追加課題～新型コロナウイルス感染症拡大をうけて～】

新型コロナウイルス感染症により、大きく活動が制限され、サークルや団体の維持・存続さえ難しい状況が続いています。

実際、集まって活動ができない期間が長くなり、サークルや団体を維持していくだけの意欲が無くなり、解散をしてしまったところもあります。

このように、社会教育関係団体だけでなく、サークルや一般団体を減少させないためにも、検討課題の①、②、③にとらわれずに幅広く長期的な支援を行っていく必要があります。

活動の見通しが立たない中、社会教育関係団体の認定を受けるための要件に満たないために申請を行わない団体も多くあることが予想されるため、市はそのような団体に対してどのように支援する必要があるのか検討する必要があると考えます。